

## 第1回稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議 会議録

【日 時】 令和2年10月5日（月） 午後3時～午後4時30分

【場 所】 稲沢市役所政策審議室

【出席者】 稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議委員（敬称略）

秀島栄三	名古屋工業大学大学院工学研究科教授
小森昌哉	共栄食品株式会社代表取締役
柴田宗敏	愛知県立稲沢高等学校教諭
白橋正樹	稲沢金融懇話会幹事
後藤 靖	連合愛知尾張南地域協議会代表
稲熊雅子	三工機器労働組合執行委員
伊藤香太	公募
田口そら	公募

〈事務局〉

加藤錠司郎	市長
篠田智徳	市長公室長
吉川修司	企画政策課長
飯田達也	企画政策課統括主幹
岡部雅憲	企画政策課主幹
野中知華	企画政策課主任

### 【議事次第】

○委嘱状交付

- 1 市長あいさつ
- 2 会長及び副会長の選出
- 3 議事
  - (1) 第1期『稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略』の進捗状況について
  - (2) 第2期『稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定方針について
  - (3) その他
- 4 市長公室長あいさつ

### 【会議の概要】

○委嘱状交付

## 1 市長あいさつ

第1回稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議の開催にあたり、一言あいさついたします。

本日は皆様大変お忙しい中、第1回稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議に出席を賜りまして、誠にありがとうございます。日頃は市政各般にわたりまして御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

ただ今、委員の皆様方に委嘱状を交付させていただきました。本当にご多忙のばかりではございますが、快くお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。重ねて厚く御礼申し上げます。

さて、国では平成26年度に「地方創生」「まち・ひと・しごと創生」を看板政策に掲げ、急速な少子高齢化、人口減少、東京一極集中といった問題に対応するため、国としての『人口ビジョン』『総合戦略』を策定しました。昨年の年末には第2期の戦略を閣議決定するなど、継続して推進しております。

また、地方自治体に対しましても、地方版の『第2期総合戦略』を策定し、更なる地方創生の充実・強化に向け、切れ目ない取組みを進めるよう求めています。

既に我が国では人口減少局面に入っており、今後数十年にわたってその傾向は続きます。本市も例外ではありません。「人口減少に歯止めをかける」と口で言うことは簡単であります。様々な対策を講じたとしてもその効果が表れるには長い年月が必要であり、並大抵のことでは実現できるものではありません。そして、行政だけが頑張れば解決できるものでもないと思っております。市民がこの現状を認識していただいた上で、立ち向かっていく決意が求められると考えています。

そこで、本市におきましても『第2期総合戦略』において目指すべき方向性と具体的な施策を示し、元気で活力あふれる稲沢市を持続していかなければならないと思っております。これには、幅広い分野からの意見をいただく必要があります。また、将来を考えていくには、次世代を担う若者からの意見を欠かすことはできません。

本日、ご出席いただきました皆様は、各専門分野においてご活躍されている方ばかりでなく、今後の本市の発展を担う若い方々からもお集まりいただいております。

本会議では、皆様方から多様な観点から御意見をいただき、本市の弱点は何か、強みは何があるのか、中長期的に可能なこと、短期的に効果があるかを真剣に考えることで、時代に合った施策、将来を見据えた施策を『第2期総合戦略』に反映させていきたいと考えております。

これまで以上に、市をあげて連携・協力を持って取り組んでいく所存でありますので、限られた時間の中ではありますが、本市の将来にとって活発な議論をお願い

申し上げます、私からのあいさつといたします。

## 2 会長及び副会長の選出

委員及び事務局の自己紹介の後、稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議設置要綱第6条第1項の規定に基づき、委員の互選により、会長に秀島委員、副会長に小森委員を選出。

## 3 議事

### (1) 第1期『稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略』の進捗状況について

[会長]

まず始めに、本日の議事の(1)「第1期『稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略』の進捗状況」について、事務局から説明をお願いします。

=事務局=

第1期『稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略』の進捗状況について説明  
【資料1】

○質疑

[委員]

第1期『稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略』の総括として、事務局にて各事業についてS～Cと評価し、また、指標が評価にそぐわない事業については「-」として整理されています。

今後策定する総合戦略にも指標の設定や評価は必要だと思いますので、適当な指標の提案等があれば御意見をいただきたいと思います。

[委員]

基本目標(1)の数値指標である社会増についてお尋ねします。本目標の達成率は▲101.7%でCと評価されていますが、この結果について危機感を持った方が多い数字なのではないでしょうか。また、達成できなかった原因について説明をお願いします。

次に、資料を読んで受けた印象として、戦略の課題が見えにくいように感じました。本市が抱える課題を明確にした上で、その課題に対して策を講じ、毎年評価・改善する仕組みにすると、より実効的、持続的な戦略になると考えます。

[事務局]

まず、「社会増」の目標を達成できなかった原因として、目標値の設定の経緯より説明いたします。

第1期総合戦略と人口ビジョンを策定した際に、3パターンの推計条件を設定して本市人口のシミュレーションをしました。シミュレーション1は、子育て支援環境の整備等により、国の長期ビジョンを参考に、合計特殊出生率が2020年に1.60、2030年に1.80と改善していくと仮定した場合の見通し、シミュレーション2は合計特殊出生率の改善に加え、開発等による宅地の創出によって人の定着と流入が促され、純移動率が5年毎に一律に改善すると仮定した場合の見通し、3つ目は何も手を打たなかった場合の見通しです。目標値として設定した「社会増650人」は、シミュレーション2の条件下で令和元年度までの社会増として見込まれる数値です。しかしながら、実際には本市ではこの5年間で大規模な開発はなかったため、目標を下回る結果となりました。

また、第1期総合戦略全体の課題でもありますが、そもそも数値目標、重要業績評価指標（KPI）の設定が適正であったかという検証も必要と考えています。

例としまして、第1期総合戦略では定住推進のための手法の一つとしてNo.8「国府宮駅周辺の再整備」を重点戦略として掲げております。この事業のKPIについて、策定当時は戦略に位置付けたばかりの事業でしたので、再整備に向けた現況調査の実施をKPIとしました。計画期間の取組みの結果として、H28に調査を実施したため進捗はSとしておりますが、現状として国府宮駅前の開発が進み、定住が進んだかという点、そうではありません。このように、総合戦略に記載されている事業について、進捗度合をデジタルにS～Cと整理しましたが、それだけでは判断が難しい、適切ではないものもありますので、S～Cの進捗度合の評価とあわせて、文章で事業の振り返りをまとめております。こちらをご覧ください、第2期総合戦略ではこんな指標が適当ではないかという意見や議論を委員の皆様からいただけたらありがたいと考えております。

次に、課題を明確にするという御意見につきましては、まち・ひと・しごと創生は、魅力的なまちづくりを行うことで、人口減少に歯止めをかけ、経済を向上させて市を発展させることが主眼でございます。市長選挙が来月に控えておりますが、現市長としても選挙公約に住居系市街地の拡大を掲げており、そうした点を課題と考えていると思います。他には、以前の戦略会議である委員の方から子育て支援については、出生率の向上は国の施策に大きく影響を受けるものであるため、市が考えるべきことなのか、という問題提起もありました。その時には、市として出生率の向上を阻害する要因を取り除くためにできることはしていかななくてはいけないとお答えしております。このように市にとってこれが課題ではないか、また、この

ことは課題として考える必要はないのではないかとといったことも、戦略会議の場で議論をしていただけたらと考えております。

[委員]

基本目標(3)「市内の雇用を拡大します」の数値目標である農業生産法人経営体数について、数は少ないが着実に増えている印象を受けました。この結果を、明るい見通しを持てる良い結果として捉えて良いでしょうか。

[事務局]

現在、市内の農業従事者の多くが65歳以上の高齢者です。今後、高齢化が進むことで、後継者不足により廃業が進むと考えられます。このことから、第1期総合戦略では重点戦略に「農地の集約や農業法人化を推進し、力強く持続可能な農業を創出します。」と掲げたという経緯があります。第1期総合戦略に記載されている事業として、農業従事者の担い手不足の解消を目的に、はつらつ農業塾「担い手育成コース」を開講しておりますが、個人が新規に就農するのは年に1～2人ほどのペースです。農業生産法人経営体数の増加についても同様に、高齢化に追いつかない状況であることから、市として強い危機感を持っており、第2期総合戦略でもこの内容が課題であると考えております。

また、このことに関して担当課である農務課からの聞き取りのなかで、農業公社の設立を検討する考えがありました。この公社につきまして、例えば農業高校である稲沢高校の卒業生を人材として採用し、会社の形態で農地の耕作を行います。まずは公社が雇用の受け皿となり、新規就農者がノウハウを学んだ後に独立するという流れを作ることで、後継者の育成や、耕作の担い手、利潤を得ていくことができないかと議論がされているところでございます。

[事務局]

補足としまして、新規の農業生産法人については、資料1のNo.50「農地の集約や法人化を推進」のH28実績にあるように、「農業の大規模化を推進した結果、3経営体が農地所有適格法人となった。」とあり、つまり、元々あった経営体が農地の集約などにより規模が大きくなって適格性を持ち、法人化されたということです。H30、R1にも法人数は増加しておりますが、こちらも以前から市内にある経営体が法人化した数でございます。新規就農者を増やす取組みは、引き続き県の農起業支援センターと連携しながら、新規参入への支援・研究を行っているところです。

[委員]

農業に従事したい生徒の受け入れ先をつくり、就農へ結びつけるという考えはとても良いと思いました。本校でも、農業を学び従事を希望する生徒はおりますが、農業法人が少なく就職先がないことから製造業に流れていくという実態があります。また、本市は農業だけでなく、造園、植木も盛んですのでもっと力を入れていくことで市のPRにも繋がると思います。

他には土地利用につきまして、農地の保全も取り組んでほしいと思います。長年、人が手をかけて耕してきても、宅地にしたり、アスファルトを流してしまうと農地としては使えなくなってしまいます。最近では水害も多いことから、農地を削り宅地化が進むと更に危険性が高まるのではないのでしょうか。

駅付近は市街地としての開発をするが、郊外などの市街地以外の農地は守るなど、メリハリを効かせた土地の活用が大切だと考えます。

[委員]

新たに総合戦略を策定するにあたり、同じ目標に対して継続して取り組みクリアしていくことも大事ですが、それでは爆発的に人口が増えることはないと考えます。

本市は地権者の方が土地を手放したがるという傾向もあり、国府宮周辺の開発が進まないという根本的な問題がありますが、人口を増やすには近隣自治体と競争しながらの人の取り合いになると考えます。「子育て・教育は稲沢で！」という政策も継続していくと思いますが、保育園給食主食代無償化などのように開始当時は先進的だった施策も近隣が追いつくことですぐに陳腐化してしまいます。近隣に負けない、より進んだ新しい取組みを新しい総合戦略には組み込んでいかななくてはならないと考えます。

## (2) 第2期『稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定方針について

=事務局=

第2期『稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定方針について説明

【資料2】

○質疑

[委員]

公募委員のお二人から若い世代ならではの本市への意見や感想などはありませんか。

[委員]

非常に言いにくいことですが、私たちの世代にとって本市に魅力を感じるものは少ないと感じています。インターネットで調べものをする場合に、私はスマホをよく利用しますが、その際にあまり掘り下げて調べることはしません。このことから、本市にも直観的にわかりやすく魅力的であると感じる部分が増えれば、私たちの世代にも良さが伝わるのではないかと思います。

[委員]

私が本市の課題と感じていることは知名度の低さです。

私は、高校は市内ではなく一宮市に通っていましたが、当時、本市自体は隣の市なので知ってはいるものの、どのようなまちなのかはわからないという声をよく聞きました。また、大学は三重県に通っていますが、本市は比較的三重から近い位置にある自治体にもかかわらず、市の名前も聞いたことがないと言う友人が数多くおり、知名度の低さを身に染みて感じました。

市の知名度向上は、社会増や雇用の拡大といった目標に対しても効果があると考えられることから、本市に必要な取組みであると感じています。

[委員]

知名度についての意見でしたが、本市では最近シティプロモーションの取組みを始めています。これまでにその取組みについて何か目にしたものはありますか。

[委員]

ありません。

[事務局]

本市ではシティプロモーションへの取組みを第1期総合戦略の重点戦略の一つとしています。本格的には平成30年度から取組みを始めておりますが、最初の3年間は認知度を高める段階としてプロモーションを行っております。

他市の取組みの例として、主要駅等でのチラシ配りやポスタージャック等がありますが、一週間で数百万円の費用が必要となるなど、経費が高額であるがプロモーションの効果は測定しづらいといった問題があります。そのため、本市ではまず本市に興味を持ってくださった方にとってのプラットフォームとなるような、特設サイトを市ホームページ内に設置しました。サイト内の記事の作成にあたって、プロの

方に原稿や写真を依頼するなど、グレードの高いものになるよう努めております。サイト記事は、本市の子育て支援施策や国府宮駅周辺再整備、本市で活躍されている方や、市外の方が遊びに来ていただけるようなスポットの紹介をする内容となっています。今年度からは、市内在住の漫画家の方に書いていただいた市内の飲食店を紹介するグルメ漫画の連載をはじめました。

また、本市に魅力がないという御意見についてですが、以前に企業向けにネーミングライツ事業に協力していただくための営業をしていた際に、同様の御意見をいただいたことがあります。

本市は、名古屋駅から特急で一駅という、大きなアドバンテージがありますが、その潜在能力を発揮できていない状態だと考えています。今後、リニア中央新幹線が 2027 年に東京から名古屋まで開通するといわれており、その影響として名古屋駅周辺で働く人が 10,000 人程度増えるという話があります。そういった方が住む場所として本市を選んでいただきたいという思いがあります。そのためには、国府宮駅周辺やその南北の市街地の形成が薄いとされておりますので、そのあたりの開発に取り組んでいきたいとしておりますが、その取り組みが形となるのにまだ時間がかかると言われています。宅地が供給されるまでの長い照準となりますが、それまでにシティプロモーションの効果が上がり、開発との相乗効果がでると良いと考えています。

#### [事務局]

補足として、本市のシティプロモーションは 20 代の単身女性をメインターゲットとしております。今後、就職や結婚など転居を伴うライフスタイルの変換点を控えている方に対して本市の魅力を訴えることで、将来本市を居住地として選択していただくことを狙いとしております。本市の傾向として、20～30 代に転出が進み、一時的に人口が減少します。その後にも増加しますが、今の時点で本市在住の大学生、高校生の方が、稲沢にいてよかった、また、魅力があると感じていただけていないと、10 年後 20 年後に再度本市に戻って住んでいただけないと危機感を持っております。このことから、第 1 期総合戦略でも様々な施策を行っておりますが、第 2 期総合戦略の策定にあたって、本市の魅力は何か、どうしたら魅力が上がるかといったことについて、若い方からの御意見を伺いたいと考えております。

#### [会長]

第 2 期総合戦略の策定の基本方針は、第 1 期総合戦略の方向性を踏襲していく案となっていますが、それで良いでしょうか。修正を加える必要があるなどの意見は



ありませんか。

[委員]

第1期総合戦略の基本目標に沿って策定を進めるという方針に賛成します。

しかしながら、新しい総合戦略の策定にあたって第1期総合戦略の個々の事業については評価ができていますが、基本目標に対してどの事業が効果的であったか、また、基本目標の下に基本的方向がありますが、それぞれの基本的方向には評価がありません。良かった点と悪かった点が明確にならないと、改善点も見えにくいので、そのあたりをまとめた資料は作成されますか。

[事務局]

基本目標に対する基本的方向の進捗や課題について、次回の戦略会議にて提示する第2期総合戦略の素案の中でお示しいたします。

[委員]

18年前に3年ほど本市に住んでいたことがあります。良かったと感じた点は、駅前に住んでいたということもあり、家から名古屋駅に出るのに20分かからなかったところです。現在は名古屋市内に住んでいますが、名古屋駅に出るのに40分かかります。このアクセスの良さはとても大きなアドバンテージであり、その点では一宮市よりも有利な位置環境であるといえます。本市の最大の強みであると考えますので、この強みを活かすことができると良いと思います。

[委員]

これまでの流れを継承して進めるという方針は、地に足をつけて進めていくという観点からも良いと思いますが、提案としまして、新しい総合戦略には「ウィズコロナ」の視点を織り込んではどうでしょうか。最近では働く場所もオフィスだけでなくサテライトオフィスや自宅などと変化が起きています。企業の中でもマネジメントや人材育成に課題を感じているとの声を聞くことがありますので、ビジネスサポートなどの成長路線とあわせて、コロナ禍で発生したニーズへの対応も付加して総合戦略を作っていくとより実効的な計画になると思います。また、現在取り組んでいる中小企業振興奨励補助事業などのような資金繰りに関するサポートについても、リアルタイムでしっかりと周知、情報発信することが大切だと思います。

アフターコロナについては未だ見通しが立ちませんが、市が「新たな日常への対応」についてメッセージを発信することは、市民や事業者の安心にもつながり、魅

力あるまちに行き着くポイントになると考えます。

[委員]

私は東京に親戚が多く、そちらではコロナ禍の影響により出勤が週に1回程になったという話を聞きます。東海地方は製造業が盛んなため、この地域では状況が違おうと思いますが、居住先を選ぶ際に、かつてのような都会的な魅力あるまちから、手頃に住めるまちへと選択の傾向が変わってきているようです。飲食店や商業施設が多く賑わいがある、いわゆる魅力的なまちは、そもそも人が多く集まっていないと出店する事業者がありませんので、本市がこれから目指していくのは難しいと思います。第2期総合戦略は一步引いて、ゆったりと心豊かに暮らせる自然のあるまちとして稲沢をPRしたら良いのではないかと思います。本市は仕事をするにも、子育てをするにも優れた環境だと感じていますので、今あるものを活かして総合戦略を作れたらと考えます。

### (3) その他

[会長]

次に、議事の(3)「その他」について、事務局から説明をお願いします。

=事務局=

今後の予定について報告いたします。今年度の会議につきまして、今回の会議を含め全4回の開催を予定しております。次回は11月12日(木)の開催を予定しております。その際には、第2期総合戦略の素案を事務局より提示し、皆様の御意見をうかがいたいと思います。第3回は来年1月28日(木)を予定しており、第2回で御意見いただいた点やその他の追加すべき点を修正した素案を提示させていただきます。そこで更に御意見をいただいた内容について修正を加え、パブリックコメントを実施します。第4回会議を予定しております3月23日(火)に委員の皆様へ最終案を報告させていただいた後、市ホームページ等で総合戦略の公表を予定しております。

○質疑

[会長]

御意見等はございませんでしょうか。

特に御意見等ないようですので、これで会議を終了したいと思います。その他、事務局から何かあればお願いします。

[事務局]

本日はありがとうございました。委員の皆さま方から賜りました御意見を踏まえ、今後の事務を進めてまいりたいと思います。

それでは最後に、市長公室長からあいさつ申し上げます。

#### **4 市長公室長あいさつ**

本日は活発な御議論いただきありがとうございました。

委員の皆様の御意見にありましたように、第1期総合戦略策定から5年が経過し、コロナ禍を始めとして様々に社会情勢が変わってきております。このことを踏まえまして、次回の戦略会議では新たな総合戦略の素案を提示させていただきます。是非、今後とも忌憚のない御意見をいただきますよう、よろしく願いします。

本日の会議終了後、お気づきの点や御意見等あれば、企画政策課まで御連絡いただきたいと思います。本日は長時間にわたって活発に御議論いただき、誠にありがとうございました。